

小平市立小平第四中学校「学校だより」



四季

第1号（4月・入学式）

～四中の季節～

『正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む』

令和7年4月8日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

令和7年度 第61回入学式 校長式辞

校長 関 勝 志

正門の桜が今日の日を待ちこがれていたかのように、一心に花を開いています。校庭の池にはカルガモたちがお出迎えに来てくれました。春の息吹を感じる中、第61回入学式を迎えました。

新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。ただ今、177名の新入生を本校の生徒として受け入れました。

本校は、創立60周年を迎え、新たな学校教育目標のもと、記念すべき第一歩を皆さんと一緒に踏み出します。

小平四中の目標は「正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む」です。

「正しく学ぶ」とは、基礎・基本を身に付けること。教えてもらうのではなく、自ら学ぶこと。あふれる情報を正しく判断し、活用することです。

「自他を尊重する」とは、自分の考えをもって行動すること。他者を思いやり、感謝すること。生命や人権を大切にすることです。

「たくましく生きる力を育む」とは、最後までやり抜く力をつけること。困難に耐え乗り越える強い心を育てること。健康で丈夫な体をつくることです。

「ふるさとと共に歩む」とは、愛校心を培うこと。地域とのつながりを大切にし、貢献すること。自己実現に向かって進むことです。

この目標をしっかりと心に刻んでください。

今日、皆さんが通ってきた正門には、「小平市立小平第四中学校」の文字が刻まれています。あの門標の文字は、湯川秀樹博士が書いたものです。湯川博士は、日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した偉大な科学者です。戦後の日本の物理学研究を牽引しました。

物理学は、その使い方によっては、原爆のような恐ろしい核兵器も生み出します。湯川博士は、日本が原子力発電所を建設するにあたり、原子力委員の要請を受けました。しかし、湯川博士は、「基礎的な研究をしないまま原発の建設を急ぐことは、将来に不幸や災難をもたらすことになる」といい、拒んだそうです。その後も、核兵器廃絶を訴える平和運動に積極的に参加しました。湯川博士は、科学者としてだけでなく、平和を強く求める思想家としても、世界的に高く評価されています。

「一日生きるとは、一歩進むことでありたい」

これは湯川博士の言葉です。皆さんはこの言葉の意味をどう捉えますか。

この言葉の本当の意味は湯川博士にしか分かりませんが、思うに、一日一日を大切に生きるということ。たとえ小さな一歩でもそれを積み重ねることで目標や夢に近づけるということ。一歩が進めない日があっても進むことをあきらめないということ。そんな意味が感じ取れます。

皆さんのこれまでの道のりは、すでに敷かれたレールの上を進んできました。でも、ここから先は違います。皆さんの三年後、その先に、道はまだありません。自分の力で道を拓き、自分だけのレールを敷くのです。それを自立と言います。

中学校では、皆さんが自立し、よりよく生きていくための力を身に付けます。そのために、教科の学習はもとより、様々な体験や多くの人たちとの関わり、世の中の出来事から学ぶことがたくさんあります。

そして、自立とは、自分一人の力だけで生きていくということではありません。困ったときには誰かに助けを求めても、辛いときには弱音を吐いてもいいんです。そのかわり、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてください。皆さんの周りには、頼れる人がたくさんいます。安心してください。

小平四中は「誰一人取り残さない学校」を目指しています。そのために四中生が大切にしているもの、それは挨拶です。挨拶は人を笑顔にし、幸せにします。これから始まる皆さんの中学校生活が挨拶と笑顔であふれ、幸多からんことを願います。

結びに、私たち教職員一同、生徒たちの幸せのために最善を尽くす決意しております。保護者の皆様、ご来賓ならびに地域の皆様には、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

新入生の皆さんが自立に向かって一歩一歩着実に歩いていくことを信じ、校長式辞といたします。



教職員はもとより、家庭や地域、関係機関が一丸となり、「チーム四中」として学校経営を進めてまいります。保護者の皆様、そして地域の皆様には、これから一年間お世話になることがたくさんあると思いますが、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

